


## 農学部研究シーズ2014

所属・職・氏名	共生環境課程・講師・松木 佐和子	
紹介する研究シーズ名	森林昆虫（クスサン）による被害拡大予測に関する基礎研究	
キーワード	森林害虫、広葉樹林、生物多様性	
<p><b>シーズの「売り」は！！</b></p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>既に北海道で起きているウダイカンバ林での被害事例や岩手県をはじめとする東北各県での調査から、東北圏でもクスサン大発生リスクがあることが明らかになっている。この基礎研究を元に森林管理を行う事によって、未然に森林昆虫被害を防ぐ事ができる。</p> </div> <p>北海道と岩手県の両地域で採取されたクスサンの卵を同条件で飼育し、樹種を変えて生存・成長率の違いを比較した。その結果、北海道、岩手県の両地域由来のクスサンともに、ウダイカンバを与え続けた幼虫の生存・成長率が最も高く、次にサワグルミとトチノキが同程度、そしてシラカンバが最も生存・成長率が低くなった。餌の質の指標となる炭素／窒素比は、シラカンバで最も高く、サワグルミ、ウダイカンバ、トチノキと続いた。以上の結果より、これまで野外における被害は確認されていない岩手県のクスサンについても、飼育実験ではウダイカンバでの生存・成長が最も良いことが分かった。野外におけるモニタリング調査から、東北圏においてもクスサンは全域的に分布しており、ウダイカンバが頻出する比較的高標高でも捕獲されたことから、東北圏でもクスサン大発生のリスクは高い事が示された。</p>		
<p><b>【研究シーズの応用例・活用分野・展望】</b></p> <p>虫害被害のリスクを避ける森林管理方法の提案</p>		
関連特許・関連資料等		